



### 起業型地域おこし協力隊

なかじま よういち  
中島 洋一さん

着任：令和4年4月  
出身：標津町

#### —これまでの経歴について教えてください。

車のディーラーや機械修理会社で、修理や部品交換の仕事をしていました。手作業で物を作ったり直すことが好きで、ものづくりについて学ぶため、37歳で北見高等技術専門学院の造形デザイン科に入学しました。その後、入社した家具会社では、介護施設で使用するイスの座面や背もたれを張る作業を担当しました。

#### —厚真町に来てどんなことをしていますか？

日々の暮らしの中で使える道具を製品として作っています。今後、各地で開催される展示会や来年のクラフト展にむけて、北海道に生息する動物をモチーフにした手彫り作品の製作もしています。

#### —動物をモチーフに選んだのはなぜですか？

木彫りの熊を見た時、動物作品って面白いなと思いま

した。流通しているものは、荒々しく、自分が思う可愛いデザインの商品にしたいなと思って彫ったのが最初です。動物を忠実に再現するだけでは面白くないので、頭の中に湧いてきたイメージを作品に落とし込むようにしています。

#### —木工の世界に入ったきっかけを教えてください。

私の身の回りには木を素材とした製品が多く、木の触りやぬくもりが好きで長く使っています。20世紀を代表するデンマークの世界的な家具デザイナーのハンス・J・ウェグナーが作ったイスがかっこよくて、そんなイスが作れたらいいなと思い木工作家を目指しました。

#### —厚真町に移住しようと思った理由を教えてください。

林業を後押ししている活動があり、志高く活動する人がいて魅力的だからです。木工作家として、製作するには良い材木を仕入れることが大切です。理想とする材木を入手することは難しいですが、地域の人たちとの関係性を息長く広げていき、厚真町の木で作品作りを進めていきたいです。

#### —今後の目標は何ですか？

木工作家として生活ができるように自立することです。規模の大きな展示会に積極的に出展することで、販売ルートを開拓し、広げていきたいです。

## 地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈8月末現在〉

農業支援員▷9人 教育魅力化支援員▷3人  
起業型▷6人 協働型▷15人



### 農業支援員

まるやま りょうた  
丸山 亮太さん

着任：令和4年4月  
出身：苫小牧市

#### —これまでの経歴について教えてください。

立命館大学を卒業後、日本製紙株式会に入社し、アイスホッケー部に所属していました。工場洋紙やコート紙を製造するマシンのオペレーター業務を担当し、夜勤も日勤もある交代制の勤務体系で働いていました。

#### —農家になろうと思ったきっかけを教えてください。

工場勤務では、時間的に不規則な生活を送っていました。太陽の光を浴びることが少なく、体内時計が狂ってしまった感覚があり、太陽の下で体を動かす仕事をしながら健康的な生活がしたいと思うようになりました。

幼少期に厚真町で過ごしていたころに見た、周囲の人たちが家庭菜園や農業をやっていた景色を思い出し、農業への意欲が沸いたことがきっかけです。情報収集をしていた時、厚真町が地域おこし協力隊の農業支援員を募集していることを知り応募しました。

#### —厚真町ではどのようなことをしていますか？

町の研修農場では、ほうれん草やイチゴのハウス栽培、カボチャの露地栽培などを通して農業を学んでいます。先輩の研修生に同行して、地域の農家さんのところへ行き、米の種まきや農作物の収穫、草刈りなどを手伝っています。

#### —厚真町の印象を教えてください。

海も山も川もあって、自然が豊かで空港も近くてすごくいい場所だと思います。町内の人の顔と名前が一致するほど、人と人の距離が近い関係性が印象的です。地域内での情報の伝達速度が速く、ネットワークの強さを感じています。

#### —3年後はどうなっていたらいいですか？

どんな農家になりたいかは、まだ模索中です。農作物はほうれん草、イチゴをメインに生産したいと思っています。農家さんでの研修の中で、第三者継承という制度があることを知り、興味を持ちました。厚真町の農業も高齢化が進んでいて、課題の一つに後継者問題があります。第三者継承は、信頼関係が重要なので地域に貢献しながら信頼を築いていきたいと考えています。地域の農業を継承し、持続できるようにしっかりと学んで準備を進めていきます。